

M33a CME 発生領域の経度分布

亘 慎一 (通信総合研究所)、渡邊 堯 (茨城大)

Coronal Mass Ejections (CMEs) と呼ばれる太陽コロナ中の擾乱現象は、コロナグラフにより太陽の縁で観測されるため、太陽面上の現象との対応については、まだ、はっきりとしない点が残されている。そこで、Solar Maximum Mission (SMM) 衛星のコロナグラフによって観測された CME の発生経度分布について統計的な解析を行った。CME は太陽の縁で観測されるので、太陽の縁から 50 度以内で発生したと仮定してその経度を決定した。CME の発生は太陽活動と正の相関を持っており、太陽活動の極小期にはその発生も少なくなる。このとき、CME の発生が他の経度に比べて少なくなる領域が存在することがわかった。CME は、太陽活動の上昇とともに、ほぼ一様に発生するようになる。太陽黒点群、フレア、フィラメントの発生と比較した結果、CME の発生が少なくなる領域は、太陽黒点群やフレアの発生が少ない領域に関係しているようである。